

2020年11月10日
日揮ホールディングス株式会社

2020年度第2四半期
オンライン説明会における主要質疑応答（2020年11月10日開催）

※オンライン説明会開催日（2020年11月10日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2020年度第2四半期決算に関して

質問	回答
第2四半期（7月～9月）は売上総利益率が12%を超えており、通期業績予想（売上総利益率9%）に対して上振れているが、主な要因を教えてください。	第2四半期の売上総利益の額にして30億円程度の上振れがあった。海外案件におけるコンティンジェンシーの取り崩しや、工事終盤を迎えている複数の案件で工事量の減少、チェンジオーダーの確定などによる採算の改善によるものである。

2. 新型コロナウイルスの影響

質問	回答
下半期にかけて、新型コロナウイルスの影響による業績悪化の懸念はないか。	欧州などを中心に感染の再拡大が見られるため、状況を注視している。現時点で断定的なことを申し上げられる状況にはない。
主要な遂行中案件に対する影響について教えてください。	国内案件は、しっかりとコントロール出来ている。サウジアラビアおよびクウェートで遂行中の製油所案件はほぼ完成しているため、特に影響はないと考える。アルジェリアで遂行中の複数の案件は、建設現場に駐在する当社社員を一時的に帰国させていたが、先月から徐々に建設現場に戻り始めて

	<p>おり、状況はコントロールできている。LNGカナダプロジェクトは、新型コロナウイルスの影響により進捗はスローダウンしているものの、概ね順調に進捗している。欧州メーカーに発注している一部の機器類で製作の遅れもみられるが、顧客と協議しながら進めている。イラク製油所近代化案件は、リモートワークも最大限活用し、予定通り年明けから設計業務を開始する予定である。</p>
--	--

3. イラクの製油所近代化プロジェクト受注に関して

質問	回答
<p>本プロジェクトの収益性について教えて欲しい。</p>	<p>個別プロジェクトの採算については開示を差し控えさせて頂きたい。但し、過去ほとんど経験のない国でのプロジェクトであり、様々なリスクを契約や見積りに織り込むなどしているものの、現時点では、収益性については慎重に考えている。</p>

4. その他

質問	回答
<p>現在策定中の長期ビジョンや新中期経営計画の方向性として、今後もオイル&ガス分野のランプサム（一括請負）型プロジェクトを積極的に受注していく方針か、もしくは経営資源を新規事業領域の探索などに重点的に振り当てる方針なのか、イメージを教えて欲しい。</p>	<p>中長期的な目線としては、様々な社会課題の解決に貢献し得る新事業領域を中心とする事業ポートフォリオにシフトしていくことを想定しているが、足元の新興国などでのエネルギー需要の増加など状況を考慮すると、化石燃料が果たす役割は依然として大きく、オイル&ガス分野の案件の進展も期待できることから、積極的に取り組んでいく。</p>

<p>現在策定中の長期ビジョンの中で、新事業領域の候補として掲げる6分野*に関して、特に有望と捉えている分野があれば教えて欲しい。</p>	<p>現在検討中であるため、詳細なコメントは差し控えるが、市場規模などを考慮すると、新エネルギー、低炭素・脱炭素エンジニアリングをはじめとする環境分野は有望であると考えている。</p>
<p>ランプサム型プロジェクトを手掛ける企業の絶対数が減少するなかで、将来、売上総利益率の上昇は期待できるのか。また、既に競争環境に変化は生じているか。</p>	<p>将来的な売上総利益率に関して現時点で言及することはできないが、競合他社が減少することはチャンスとして捉えている。一方で、原油価格低迷などを背景に、顧客の初期投資金額に対するスタンスも依然として厳しい状況が続いている。競争環境については、案件数が減少すると、競争環境も激化する可能性があるため、状況を注視している。マーケット環境を総合的に勘案すると、売上総利益率の上昇を実現することは、努力はするものの簡単なことではないと考えている。</p>
<p>バイオマス発電など、再生可能エネルギー関連プロジェクトの採算性について教えて欲しい。</p>	<p>特定分野に特別な採算性があるわけではなく、当社の全般的な売上総利益率の目線に沿うものと考えている。</p>

*「低炭素・脱炭素エンジニアリング」、「資源循環」、「新エネルギー」、「低炭素・環境対応高機能材」、「インフラ・産業革新」、「ヘルスケア・ライフサイエンス」の6分野

以 上